

	受賞者名	秋葉建設興業株式会社 阿賀野バイパス 17 工区改良その 15 工事 秋葉建設興業株式会社 小里作業所
	取組の実践場所	新潟県阿賀野市
	受賞テーマ	『現場発生材の再利用率 100%の実現を目指して!』
<p>受賞者の工事は、一般国道 4 9 号の渋滞解消及び交通事故の減少を目的とした、阿賀野バイパス事業の内、本線を横断する市道及び幹線水路の函渠（かんきょ：横断面が四角形の地下水路）を構築する工事である。同工事は北陸地方整備局新潟国道事務所から受注したもので、同作業所は企業活動として建設工事が環境に影響を与える事柄について環境法規制等・その他取り組むべき要求事項を遵守し、目標を決め、以下のとおり 3 R 実施に努めた。</p>		
1. 製品の活用により、杭頭研り（はつり：削ること）コンクリートが発生しない工夫	<p>製杭を打込んだ後で杭頭補強鉄筋を入れるため、空間が必要となり、従来この工程では研り作業を行っているが、騒音、コンクリート殻発生などの問題があった。既製杭の杭頭処理を行なう上で、事前に「ミルクトレール」を挿入しておく事で、通常は研り作業で発生する騒音・コンクリート殻を少なくした。</p>	 <p>ミルクトレール挿入</p>
2. 建設汚泥の現場内利用	<p>既製杭工で発生する削孔土は通常産業廃棄物として処理されているが、削孔土を現場内で改良する事で、建設汚泥として廃棄・処理される事なく路体盛り土材として再利用した。</p>	 <p>削孔土の状態</p>
3. 既存杭の活用	<p>幹線水路の復旧に伴い、既設杭の一部が存置されていることが確認され、その杭頭をコンクリート成形処理して再利用する事で構造物基礎工が不要となり、コスト縮減と強固な幹線水路の復旧を施工した。</p>	 <p>既設杭の杭頭処理</p>
4. 既設側溝の機能回復のための製品活用	<p>阿賀野バイパス事業の早期に整備された用排水路の一部で、地盤の不同沈下等に起因した水路勾配を満たさない箇所への対処として、落差ブロックを新たに 2 箇所加える事で、既存品の再利用により水路勾配を回復し、取り壊しや改修をすることなく水路機能の復旧を図った。</p>	 <p>自己完結型トイレ （バイオトイレ）</p>
5. 常用循環型トイレの利用	<p>自己完結型トイレ（バイオトイレ）を設置し、現場で汚水処理を行なった。微生物によって処理された処理水を循環させる仕組みで悪臭もほとんどなく、汲み取り手間や処理、土壌・水質汚染や下水施設不要など、リデュースを図った。</p>	
6. その他	<p>各工事場所において、アイドリングストップの励行、プレキャスト製品の使用、型枠の転用、省エネ型電化製品の採用、昼休み消灯等を実施しており、今後も積極的に 3 R の推進を図る予定である。</p>	